



アルバート・アインシュタイン医科大学

疫学・集団衛生学部名誉教授

ドロシー&ウィリアム・マネアロフ財団、モリー・ローゼン社会医学名誉教授

ウィメンズヘルス・イニシアチブ主任研究員

シルヴィア・スモラー

私は杉原千畝さんにホロコーストの恐怖から救われた一人です。第二次世界大戦が始まり、ワルシャワへの爆撃が始まった後、私は両親と一緒に爆撃から逃れるためにワルシャワの家を出ました。ナチスドイツが侵攻してくる中、私たちはリトアニアに封じ込められてしまいました。他の難民たちと同様に私たちには行き場がありませんでした。杉原領事は、私たちや他の約 2000 人の家族に日本への通過ビザを発給してくれ、そのおかげで私たちは日本へ逃れ、そこからアメリカまで行きつくことができたのです。杉原さんは、政府の命令に反してビザを発給するという勇気ある行動をとりました。それは彼の良心が絶望的な状況にある人々を助けることを命じたからでしょう。彼は正しいことをしたかったのです。つまり、彼は "Do the Right Thing 正しいことをする" コンテストのモデルなのです。

このコンテストが生まれたきっかけは、ある小さな出来事からでした。私は岐阜県知事のゲストとして、第 1 回バイオサイエンス・カンファレンスで講演し、杉原さんのビザが入った父のパスポートを岐阜県八百津町に寄贈しました。

このイベントの聴衆の中に、英語教師をしているという若い日本人女性が 10 歳の息子を連れて来ていました。私の講演が終わると、彼女は私に話しかけ、息子を紹介しました。私が、「小さなお子さんをこのイベントに連れてきてくださってとてもうれしいですね。でも、彼はこのようなスピーチにとっても退屈したことでしょ。うに。」と言うと、彼女は「いいえ、彼には杉原さんのことを学んでほしいし、尊敬できるヒーローを持ってほしいの。正しくきちんとした人間に育つよう、彼にはお手本となる人物が必要なのです。」と言われたのです。

私はこの言葉に深い感銘を受けました。そしてアメリカに戻ったとき、私は彼女の考えを誰か若者たちに伝えるため何かしたいと思いました。そこで、ユージン・アンド・ローズ・クレイナー・ファミリー財団とニューヨーク市教育委員会の協力を得て、ニューヨークの高校生を対象にしたコンテストを始めたのです。ニューヨークの生徒たちは、自分の人生においてどのような道徳的選択をしたのか、つまり、自分がどのように道徳的選択をしたのかというテーマで作文を書きました。その後、このコンテストはサンフランシスコ、ボストン、そしてケニア/ブルンジへと広がっていきました。

日本の小さな少年とあなたの学校、そしてあなたの人生をつないだ糸を考えてみてください

い。ずいぶん前に、遠く離れた日本で起きたある行為が、何年も経った今、キベラに影響を及ぼしているとはなんと驚くべきことでしょうか？それは「バタフライ効果」として知られています。バタフライ効果とは比喩的な例で、中国で蝶が羽ばたくとアメリカでは竜巻が発生するといいます。蝶の羽ばたきによって発生した小さな気流は、時間と空間を超えて増幅し、遠く離れた場所で強風を巻き起こすのです。1940年の杉原さんの善行は、私の命を救っただけでなく、私が救われなかったら生まれてくるはずのなかった息子の命、そしてその娘の命も救い、将来的にはその娘の子供の命をも救うことになるのです。これらのビザが発給された当初のグループの子孫は4万人以上に増え、その多くが世界をより良くするために貢献してきましたし、現在も貢献しつづけています。どれだけ多くの教師、医者、芸術家、音楽家、大工が、杉原さんの道徳的な選択によって生まれたかを考えてみてください。それがバタフライ効果です。善い行いは増幅し、それが未来に影響を及ぼすのです。

あなたが書いた物語は感動的です。あなたは自身の苦悩や勇気を持って下した難しい決断について、そしてあなたの人生を良い方向に導いてくれる人たちについて語っています。私は、このコンテストがあなたの国で開催されることをとても嬉しく思いますし、これからも、自分がベストを尽くせるよう奮い立たせてくれる地域の人々をお手本にしていってくれたら幸いです。すべての皆さんに良いことがありますように。

シルヴィア・スモラー